

2019 平和をねがう中央区民の戦争展 プログラム

8月10日(土)

- 12:00 開場
- 12:20 オープニングイベント
朗読 新婦人中央支部
- 13:30 講演「しのびよる戦時体制」荻野富士夫さん(小樽商科大学名誉教授)
- 16:30 報告と討論「俳句弾圧事件と日本の司法制度について」夢道サロン代表・殿岡駿星さん／「危険なオスプレイは横田にもどこにも要らない」福生平和委員会・奥富喜一さん
- 18:30 DVD鑑賞「証言3部作 侵略戦争・中国人強制連行・20世紀からの遺言」(日本中国友好協会制作)

8月11日(日)

- 10:00 開場
- 10:50 DVD鑑賞「731部隊細菌戦」
- 12:00 ワークショップ「しるしる憲法」
- 13:00 合唱 エーデルワイス(新婦人中央支部)
- 13:30 講演「731部隊は中国で何を行ったのか」奈須重雄さん(NPO法人731部隊・細菌戦資料センター理事)

企画・展示

「731部隊・100部隊」「新聞は当時、戦争をどう伝えたか」「月島を愛した反戦・自由律俳人 橋本夢道」「首都圏の米軍・自衛隊基地の実態」「辺野古新基地は造れない、造らせない」「人権と平和」「憲法9条が紡ぐ世界との信頼」など。

☆☆☆「平和をねがう中央区民の戦争展」(平和プラザ)のあゆみ☆☆☆

「平和プラザ 平和をねがう中央区民の戦争展」は、2000年9月、八丁堀にあった東京都立勤労福祉会館ギャラリーで第1回を開催しました。(タイトルは「平和のための戦争パネル展」)。「過去の戦争はどのように記憶されているのか。この街の歴史から学びたい」「ヒロシマ、ナガサキ、東京大空襲といった被害だけでなく、アジアへの加害のことも学びたい」というのが始めた動機です。

翌年の01年9月11日、2回目のとき(タイトルを「中央区 平和のための戦争展」に変更)、私たちに衝撃を与える出来事がありました。ニューヨークで起きた同時多発テロです。その後のアフガニスタンへの報復戦争、イラク戦争、自衛隊の海外派兵・・・自衛隊を明記し、公然と世界の戦争に参加出来るようにしたいという改憲と、一方で北東アジアの非核化、朝鮮戦争の終結という希望の中に私たちはいます。

平和プラザ2019は、講演や討論、展示等を通じ、戦争と平和について共に学び考えるための場です。みなさん、気軽にお越しください。

[主な講演・出演者/敬称略]

2002年9月＝池田香代子(翻訳家)

04年2月＝天木直人(元レバノン大使)

05年3月＝郡山総一郎(フォトジャーナリスト) ※会場を「アートはるみ」に、タイトルを「平和プラザ・平和をねがう中央区民の戦争展」に変更

06年3月＝ジャン・ユンカーマン(映画監督) 同氏の『映画・日本国憲法』上映

07年3月＝ロベルト・サモラ(コスタリカ人、「ピースボート」スタッフ)、明珍美紀(毎日新聞記者・元新聞労連委員長)

08年3月＝堤未果(ジャーナリスト) ※会場を「月島社会教育会館ホール」に変更

09年3月＝志葉玲(ジャーナリスト)、長谷部貴俊(日本国際ボランティアセンター・アフガニスタン担当)、増山麗奈(画家)

2010年3月＝高橋哲哉(東京大学大学院教授)

11年3月＝3.11東日本大震災により初日に中止、10月に延期

11年10月＝蓮池透(元「北朝鮮による拉致被害者家族の会」事務局長)、穂積剛弁護士

12年3月＝アーサー・ビナード(詩人・絵本作家)

13年3月＝孫崎享(元外務省国際条約局長)、笹山尚人弁護士

14年3月＝鎌田慧(ルポライター)、泉澤章弁護士

15年3月＝宇都宮健児(元日本弁護士連合会会長)、三遊亭神楽師匠 ※プレ企画

8月＝浅井基文(元広島市立大学平和研究所所長)、黒澤いつき弁護士 ※開催時期を8月に変更

16年8月＝宮城栄作(沖縄タイムス東京支社報道部長)、川上詩朗弁護士

17年8月＝小野賢二(南京事件研究者)、石田勇治(東京大学大学院教授)

18年8月＝伊藤千尋(元朝日新聞記者)、前田哲男(軍事ジャーナリスト)

19年8月＝荻野富士夫(小樽商科大学名誉教授)、奈須重雄(NPO法人731部隊・細菌戦資料センター理事)

731部隊と細菌戦 731部隊は、旧陸軍が1936年、中国東北部のハルピン近郊に「関東軍防疫給水部」を設置したのが始まり。しかし、その実態は細菌兵器を開発し、実際の戦争に使うための秘密組織だった。石井四郎を中心とする有名大学出の医学関係者が、「マルタ」と呼んだ中国人、朝鮮人、ロシア人捕虜などを生きたままペストやコレラ菌に感染させたりする人体実験などを行い、約3,000人が犠牲になったとされる。旧陸軍はこの実験に基づき、日中戦争で湖南省や浙江省の上空からペスト菌を付着させたノミなどを投下し、1万人以上の住民を殺害した。犠牲者の遺族や被害者は日本政府を相手に裁判を起こしたが、石井四郎をはじめ731部隊関係者はアメリカへの研究資料提出と引き換えに罪を免れた。

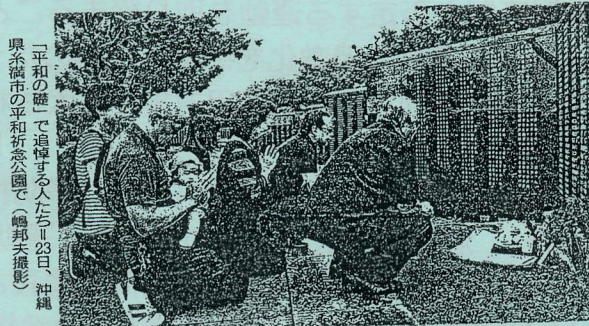
100部隊 1936年8月、中国大陸での軍馬などの軍用動物の衛生管理のための部隊として、旧陸軍が新京（現長春）に設立。広大な中国大陸で戦うには、輸送手段として馬は重要な役目を担い、一個師団で3,000頭近くの軍馬が必要とされた。蒙古の末系が多い大陸の馬は全体に小ぶりであったため、あまり輸送には適さなかった。日本軍は大砲を複数の馬で引っ張ることにも利用するために品種改良された体格の良い馬を育成・飼育。隊員、研究者は800人、中国人労働者は300人超。動物の感染症研究や血清の製造、軍馬移動時の検疫作業などを行ったり、徒歩移動が困難な地形での移動補助や物資支援のために用いられる馬の育成もしていた。軍用動物の衛生管理を行う兵員を教育する機関としての役割もあった。獣医部隊だが、実際は731部隊と同じように細菌戦の研究実践を行ない、人体実験もしていたという。

治安維持法 国体（皇室）や私有財産制を否定する運動を取り締まることを目的として1925年4月に制定された。当初は共産主義革命運動の過激化を懸念したものだったが、やがて宗教団体や芸術団体、左翼活動、自由主義、市民運動などへも適用対象が拡大されていった。1928年の改正で、「国体変革」の最高刑が死刑となり、1941年の全面改正で、「準備行為」を行ったりと判断されれば検挙可能となった。刑の執行を終えて釈放されても、予防拘禁所で拘禁できる（期間2年、ただし更新可能）とした。治安維持法は多くの活動家、運動家に適用され、小林多喜二などは取り調べ中の拷問によって死亡した。特高による拷問で虐殺されたり獄死したりした人は194人、獄中で病死した人は1,503人、逮捕者は数十万人。敗戦後の1945年10月、GHQ（連合国軍総司令部）による人権指令で同法は廃止され、治安維持法を運用した特別高等警察をはじめ、警察関係者の多くは公職追放されたものの、司法省関係者の追放は25名に留まり、思想検事として治安維持法を駆使した池田克が追放解除後、最高裁判事になり、多喜二虐殺で直接手を下したとされる特高警察の中川成夫が北区教育委員長になるなど、出世を重ねた者も少なくない。

特高警察（特高） 反体制活動の取締りのために設置された戦前警察の一部門で、思想警察として主に社会主義運動の取締りにあたった。1911年の大逆事件（明治天皇の暗殺を企てたとして幸徳秋水ら24名の社会主義者、無政府主義者が死刑になった）後に警視庁に特別高等課が設けられたのが始まりで、12年に大阪府に、23年には北海道、神奈川、長野、京都、兵庫、愛知、山口、福岡、長崎にも設けられた。さらに三・一五事件（共産党弾圧）のあった28年には全国の府県に設けられた。32年に警視庁特別高等課が特別高等警察部に昇格し、特別高等、外事、労働、内鮮、検閲、調停課に分れ、特別高等課第1課が左翼を、第2課が右翼を担当した。全国の特高部、あるいは特高課は内務省警保局保安課のもとに一元的に統轄され、極端な思想弾圧組織として恐れられた。45年10月、GHQの覚え書によって廃止された。



沖縄県大浦湾のマングローブ



「平和の礎」で追悼する人々（23日、沖縄県糸満市の平和祈念公園で）（嶋邦夫撮影）

平和の詩 全文

本当の幸せ

青くきれいな海
この海は
どんな景色を見たのだろうか
爆弾が何発も打ちこまれ
ほのおで包まれた町
そんな沖縄を見たのではないだ

ろっか

緑あふれる大地
この大地は
どんな声を聞いたのだろうか
けたたましい爆音
泣き叫ぶ幼子
兵士の声や銃声が入り乱れた戦
場
そんな沖縄を聞いたのだろうか

青く澄みわたる空

この空は
どんなことを思ったのだろうか
緑が消え町が消え希望の光を失
った島
体が震え心も震えた
いくつもの尊い命が奪われたこ
とを知り
そんな沖縄に涙したのだろうか

平成時代

私はこの世に生まれた
青くきれいな海
緑あふれる大地
青く澄みわたる空しか知らない
私
海や大地や空が七十四年前
何を見て
何を聞き

何を思ったのか

知らない世代が増えている
体験したことはなくとも
戦争の悲しさを
決して繰り返してはいけな
ことを
伝え継いでいくことは
今に生きる私たちの使命だ
二度と悲しい涙を流さないた
めに

この島がこの国がこの世界が

幸せであるように
お金持ちになれどや
有名になることが
幸せではない
家族と友達と笑い合える毎日
そが
本当の幸せだ
未来に夢を持つことが
最高の幸せだ

「命どう宝」

生きていくから笑い合える
生きていくから未来がある
令和時代
明日への希望を願う新しい時代
が始まった
この幸せをいつまでも

沖縄県糸満市立兼城小6年山内玲奈さん(11)が朗読、沖縄県平和祈念資料館提供

主催:平和をねがう中央区民の戦争展実行委員会

問合せ先 : 090-4077-2282 福田 mail : Pcdepot091602@ozzio.jp